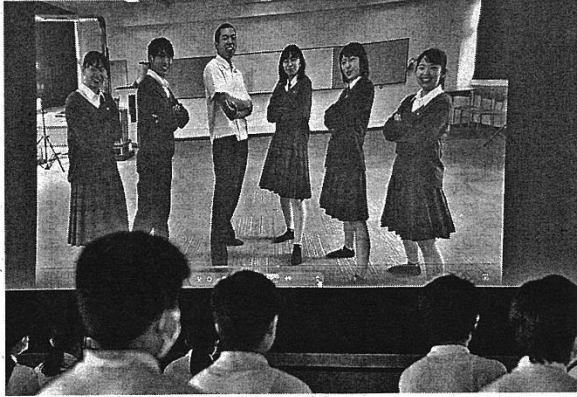


3 高校の魅力知って

関係者が5中学を訪問

市教委が展開 全校定員割れ受け

丹波篠山市教育委員会は、市内3高校の取り組みや実績を市内5中学校の3年生に伝え、進路選択の参考にしようとする事業「丹波篠山の高校へ行こう2022」を展開している。高校の関係者が各中学に赴き、それぞれの魅力を伝えている。背景にあるのは、生徒数の減少や他市の高校に進学する生徒が増えたことで、3高校全てが定員割れを起している現状。市教委は、「特色ある地元の高校に目を向け、意識を変えるきっかけにしてみよう」と話す。(森田靖久)



市内3高校の取り組みを聞く中学3年生たち
丹波篠山市東沢田で

篠山中学校にはこのほど、篠山東雲高校の教頭、篠山鳳鳴高校の教頭、篠山産業学校の3年生を前に、自校の取り組みを伝えた。

農業が特色の篠山東雲は、▽アグリプロダクト(作物・野菜)▽アグリサービス(草花・飼育)▽フードインスティテュート(食品加工・研究)の3種類の取り組みを生徒が紹介する動画を流しながら、「最先端の農業が体験できる。農業や動植物、お菓子が好きな人は、ぜひ東雲へ」と呼び掛けた。

普通科高校で、▽普通コース(進学、就職)▽総合科学コース(進路)がある篠山鳳鳴は、生徒たちが出し合った魅力を紹介。「落ち着

けでなく、地域と密接に関わって「まちづくり」や「まちの魅力づくり」の一翼を担っていることや、オープンハイスクールの日程も伝え、「二度見に来て」と呼び掛けた。

教育長は、「夢や進路を考えて、行きたい高校を考えてくれたらいい。ただ、定員割れしているからといって、市内の高校が他市の高校に引けを取っているわけではなく、いずれも

素晴らしい高校。どこに入っても、高校生活を充実したものにできるかどうかは君たち自身にかかっている。市内の高校も選択肢にしてくれたらうれし」と話していた。

丹波新聞

2021年7月25日